

# 医療とケアを問い直す、 てつがくカフェ、 はじめています。



「てつがくカフェ (café philosophique)」とは、わたしたちが通常当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった遡行的な問い(哲学的な問い)を投げかけ、ゆっくりとお茶を飲みながら、他の参加者との〈対話〉をとおして自分自身の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。1990年代に、フランスの哲学者マルク・ソーテが、パリのバステュー広場にあるカフェで始めたのがきっかけとされています。

医療やケアの現場は、脳死からの臓器移植、安楽死・尊厳死、死の自己決定(権)などといった〈死〉を取り巻く場面で突き付けられる哲学的な諸問題にはじまり、出生前診断や遺伝子診断の是非、重症新生児の治療の差し控え・停止、胎児細胞の治療研究への利用、さらには体外受精や代理母といった〈誕生〉の場面でも私たちに多くの問いを投げかけます。また〈ケア〉においても、障害者への支援や介護、看取りなど他者の生活を支える営みの複雑さ、境界の曖昧さからくる様々な問題が横たわっています。そこでは、みずからの死生観をはじめ、人間観、宗教観など、様々な価値観の問い直しが迫られ、試されることとなります。そういった点からすれば、いま、医学・医療(ケア)の現場では小手先の対応では到底解決できそうもない根本的な問いかけ、すなわち哲学的な思考が求められていると言っても過言ではありません。こうした課題に対して、「哲学対話(てつがくカフェ)」という営みを通して一緒に考えてみませんか? 今回は、「〈老い〉を問い直す」をテーマに、参加者の皆さんとともに考えます。哲学の知識は一切必要ありません。どなたでも自由にご参加いただけます。

## テーマ:「〈老い〉を問い直す」

人はいつ、自分のことを「老いたな」と自覚するのでしょうか。たいていの場合、それは、これまで簡単にできていたことがいつの間にかできなくなってしまうとか、見た目がどんどん老け込んできたなどといった、とかくマイナスの切り口から捉えられがちです。だからでしょうか、〈老い〉には、どうも最初から悪いイメージが纏わりついているような気がします。

しかし、そもそもわたしたちにとって〈老い〉とはよくないことなのでしょうか。それ以前に、〈老い〉を〈よい/わるい〉といった価値基準からとらえ返すことなど可能なのでしょうか。一度立ち止まって、〈対話〉という営みをとおして〈老い〉の本質を丁寧にたぐり寄せてみませんか。みなさま、ぜひご参加ください。

渡邊ゆうき(福井大学医学部医学科2年)



- ◆ 実施日:2017年2月12日(日)
- ◆ 時間:13時00分~15時30分
- ◆ 場所:大学連携センター「Fスクエア」  
福井駅東口を出てすぐアオッサ7階

参加無料、事前申し込み不要。  
どなたでもご参加いただけます(途中退出も可能です)。

ファシリテータ:西村高宏(福井大学医学部准教授)

ファシリテーション・グラフィック:近田真美子

(東北福祉大学健康科学部講師)

主催:てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」(福井大学地域貢献事業)

共催:福井大学医学部教育支援センター、てつがくカフェ@ふくmedi  
問い合わせ先:tanishi@u-fukui.ac.jp(西村)